

平成30年度京都市はぐくみ推進審議会 第1回ひとり親家庭支援部会 摘録

日 時 平成30年6月15日（金） 10：00～12：00

場 所 ホテル本能寺西館5階会議室

出席者 埋橋孝文委員，西恵味委員，草野政子委員，小林正委員，指宿達也委員，
芹澤出委員 (6名)

欠席者 なし

次 第

- 1 本市挨拶
- 2 部会員及び事務局の紹介等
- 3 報告
 - (1) 京都市はぐくみ推進審議会について
 - (2) 児童福祉分科会の設置について
 - (3) 子ども・若者に係る総合的な計画検討のための部会の設置について
 - (4) ひとり親家庭支援部会の目的と今後のスケジュールについて
 - (5) ひとり親家庭自立促進計画について
- 4 議題
 - (1) 子ども・若者に係る総合的な計画策定に向けた市民ニーズ調査・意識調査の実施について
 - (2) 京都市ひとり親家庭に関する実態調査について
- 5 その他

(司会：廣山 子ども若者はぐくみ局子ども若者未来部子ども家庭支援課自立支援係長)

司会	<p>ただいまから、京都市はぐくみ審議会、第1回ひとり親家庭支援部会を開催する。</p> <p>本日の会議については、市民に議論の内容を広くお知りいただくため、京都市市民参加推進条例第7条第1項の規定に基づき公開することとしている。あらかじめ御了承いただきたい。</p> <p>それでは、開会に当たり、子ども若者未来部長の上田部長より挨拶を申し上げます。</p>
上田	<p>(開会あいさつ)</p>
司会	<p>続いて、本日お集まりいただいた委員を御紹介させていただきます。</p> <p>(委員紹介)</p>
司会	<p>「京都市はぐくみ推進条例」第6条第3項において、当審議会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開くことができないこととされているが、本日は、委員全員に出席いただいているため、会議が成立していることを報告申し上げます。</p>
司会	<p>続いて、本部会の部会長を御紹介させていただきます。</p> <p>部会長の選任については、条例施行規則第3条第1項及び第2項の規定に基づき、同志社大学教授の埋橋委員にお願いすることとしている。</p> <p>埋橋部会長から一言お願いしたい。</p>
埋橋部会長	<p>私自身は最近子どもの貧困問題を中心に調査や研究を進めている。今回のひとり親に関する問題に関しては、2000年頃に「離別母子家庭に関する6カ国調査」を行ったことがあり、その中でいろいろ感じるものがあつた。多くの母子家庭のお母さんが仕事や家事に追われ、ゆっくり子どもとの団欒の時間につくれない。子どもとのコミュニケーションの時間を取りたいという切実なニーズがあることをそのとき考えた次第である。この部会では、ニーズ調査や施策についていろいろな御意見を賜りたいとおもっているので協力をお願いしたい。</p>
司会	<p>では、ここからの議事進行については、埋橋部会長にお願いする。</p>

埋橋部会長	<p>それでは、議事に入る。 まず、「3 報告」について事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>資料3「京都市はぐくみ推進審議会について」、資料4「児童福祉分科会の設置について」、資料5「子ども・若者に係る総合的な計画検討のための部会の設置」、資料6「ひとり親家庭支援部会の目的と今後のスケジュールについて」、資料7「ひとり親家庭自立促進計画について」を用いて説明。</p>
埋橋部会長	<p>ただ今の事務局の説明について質問はあるか。</p>
芹澤委員	<p>妊産婦についてはどの部会で取り扱われるのか。</p>
事務局	<p>親子いきいき保健部会で専門的に取り扱い、「乳幼児期の子育て支援」をテーマとして共同部会を開催するというイメージである。</p>
芹澤委員	<p>特定妊婦についても「親子いきいき保健部会」で取り扱われるのか。</p>
事務局	<p>妊産婦については、周産期医療や出産を中心に検討していく。特定妊婦も検討していくが、児童虐待等も関連するのでそれらを取り扱う部会で意見を頂き、トータルの計画を組み立てていくことになる。</p>
西委員	<p>スケジュールについてだが、アンケート調査をし、新しい計画を作るということか。</p>
事務局	<p>まず、各委員からのアンケート調査の項目について意見をいただき、実際に調査を行った結果を来年に示し、来年度策定する次期計画に盛り込む内容を検討し、32年度からの新しいプランを策定していくというイメージ。</p>
埋橋部会長	<p>今年度は調査項目の確定が大きな仕事となる。調査結果を踏まえての計画策定が来年度の課題と理解すればよい。 現行計画・施策の評価の担当はどこか。</p>
事務局	<p>現行計画については、例年審議会及び部会で進捗報告を行い意見を頂く。また各部会においても施策の現状について確認しながら、施策についての検討を行うことになる。</p>

埋橋部会長	新しい計画を作るときには、調査により新しいことをくみつつ、今の制度・政策で計画がどの程度実施されていて、どの程度不十分であるかという情報も必要。他に質問等がなければ次に進める。
事務局	資料8を用いて説明。
埋橋部会長	何か質問はないか。
芹澤委員	調査対象として、母子が4千件、父子が千件とされているが、この数字はどのように導きだされたのか。国の推計値では、母子世帯は父子世帯の約6倍あることになるので、父子家庭の率が実態よりも非常に多い数値になると思われる。そうすると調査内容にズレが出る可能性があるのではないか。
事務局	アンケートの回収率の関係もあるので、調査会社と調査対象について変更を行うかについて検討する。
埋橋部会長	母子家庭と父子家庭を合算して調査の集計を行うのか。合算せずに集計を行うのであれば、割合について考慮する必要はなくなる。
事務局	前回調査では母子家庭と父子家庭を分けて別々に調査票を作成していたが、現在は施策に隔たりもなくなってきているので、同じ調査票を使用し、集計は母子、父子、合計と分離して集計をする。
埋橋部会長	他に質問がなければ次に進める。
事務局	資料9を用いて説明。
埋橋部会長	調査項目についてお気づきの点があれば、6月末までに事務局へ連絡をしてもらいたい。本調査の回答に要する時間はどれくらいかかるのか。
事務局	20分程度だと思う。
埋橋部会長	忙しい方も多いので、そのあたりの配慮も必要だと思う。
事務局	調査票の表紙に何分程度かかるかは標記する予定である。
埋橋部会長	本調査はひとり親家庭に関することとだが、一般世帯と比較ができた

	<p>ほうがよい。他の調査で得た一般家庭との比較可能な項目については参照が可能となるようにしてもらいたい。例えば子どもの自己肯定感を見る項目があるが、他の世帯類型の子どもとどのような違いがあるのか等がわかればよいのではと思う。</p>
草野委員	<p>数年前に母子会が委託を受けて行政側がランダムに選んだ世帯を訪問し、母子家庭であるかどうかを確認したうえで、手渡しで調査票を渡すという調査をしたが今回の調査は別の方法をとるのか。</p>
事務局	<p>今回の調査は世帯を訪問するのではなく、事前に対象者を抽出したうえで、郵送で調査を行う。</p>
芹澤委員	<p>国のプランとして、就労等で忙しく、自治体から情報が入りにくいということを踏まえて、SNS等の活用を検討してくことがあげられているかと思うが、そのようなことはこの調査に含まれていないので、検討する余地があるのではないか。</p>
事務局	<p>今回の調査では貧困及び学習支援に関する項目を加えており、前回に比べて回答に時間を要する点を考慮するとこれ以上項目数を増やすことは難しいのではないか。他の調査項目で活用できるものがあれば、それを拾い上げたいと考えている。</p>
芹澤委員	<p>前回調査でひとり親にはかなり偏見があるという調査結果がでていたがその内容がまったく分からず、対応できないのが現状であった。今回の調査でそのような内容が把握でき対応をとることができればと思う。</p>
事務局	<p>全体に目を通していただき、不足する項目があれば意見をいただきたい。そのうえで調査に盛り込むことが可能かどうかを委員の皆様と検討させていただきたい。</p>
埋橋部会長	<p>全体を通して、ひとり親家庭の自立支援施策について自由に発言していただければと思う。</p>
西委員	<p>自身の周りのひとり親の方と話す話題は、健康のことであったり、夜眠れなくてどうすればいいかであったり、自分の健康が崩れると一気に立ち行かなくなるそういうプレッシャーがあるようで、そういった背景に潜在的ニーズがあるような気がする。</p> <p>今回のアンケート調査では、過去との推移は見ることもできるのかも</p>

	<p>しれないが、施策への反映がどのようになされるのかが分かりにくいように感じる。自分が回答する立場になった場合普段頑張っているの「食事は作っているか」などを聞かれるのは回答する側としては残念な感じがし、寄り添ってもらえていると感じられない。</p> <p>普段の頑張りを応援してもらえるようなアンケートになれば回答意欲もでると思うのでそういった項目もあればよいと思う。</p>
埋橋部会長	<p>問46以降の「日頃の悩みや相談」がどちらかという意識について聞いているところかと思われるが、それ以外は実態調査的な要素が強いかと思う。項目を増やすことが難しいとなると不要と思われる項目を削除して、意識に触れる項目を追加することになるかと思う。</p> <p>例えば問47は、回答結果と施策のとの結びつきを考えると必須でなくてもよいのではないか。委員の意見を頂く中で不要ではないかと思われるものについても提案いただきたい。</p>
小林委員	<p>労働行政に携わる立場から申し上げますと、国ではひとり親の児童扶養手当受給者にスポットを当てている。ハローワーク等をみていると、男性でハローワークを利用されるケースは少ないと思われる。またひとり親の父子家庭の方はある程度正社員としてお勤めされているので、就労に関する相談はほとんどなく、自分が仕事をしている間の子どもの世話や周辺の悩みが多々あると思われるし、一方女性の方では、男性と同じく子どもについての悩みも持ちながら、就労の悩みが非常に大きいと思う。フルタイムで働きたいけども、子どもの関係でパートにせざるを得ないという状況があるが、現在は求人数が非常に高い倍率で推移していて、企業が人手不足を背景に融通を利かせるようになってきており、これまでは一人で行っていたものを二人ペアで就労してもらいスケジュールの調整が出来るようにしたり、就労希望者には追い風の状況になっていると思う。</p> <p>また、子育てで一時期リタイアしていた人には、国の施策としてパソコンなどの教室に無料で通っていただき、スキルアップしていから就労につけるような支援を行っている。</p>
埋橋部会長	<p>今のお話の中で思い出したことがあるが、以前おこなった調査で、これまで専業主婦であった方が離婚でいきなり生活困難となり仕事を探さなくてはならなくなったときに、職業訓練で不動産情報のチラシのトレースの講習を受け、自宅でそのような仕事をされていたケースが多かったのですが、母子家庭の方には就業のサポートが必要であり、そういった情報がどれだけ届いているのかがとても重要であると思う。</p>

小林委員	問14で資格の有無や、資格が役立っているかであったり、取りたい資格を聞いているので、こちらでニーズ把握を行えば、施策に反映させるにあたって役立つのではないかと。
埋橋部会長	この項目に挙げられている資格は国家資格的なものが多い気がするが、民間資格に近いものがあったらよいのではないかと。
小林委員	問14に記載されている資格の後半部分の多くは、既にもっている方も、取得を希望される方も非常に少ないものになるので、数値化してもあまり意味がないのではないかと。また、パソコンと記載されている部分についても、資格は持っていないけれども使える方は一定おり、実際企業が求めているのは一定使えるレベルの人であるので、実際と乖離する可能性はあるのではないかと。
埋橋部会長	ここまで国家資格を並べる必要はないのではないかと。
小林委員	大まかな資格をいくつか載せておき、残りは「その他」という括りにして、もっている資格を自身で記載してもらえばよいのではないかと。
埋橋部会長	これまでの議論も踏まえて、6月末までに各委員から意見を頂きたい。本日は以上とさせていただきます、次回以降、アンケートの実施やひとり親家庭支援施策のことも含め検討いただきたい。 (以上)